

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	家庭科「食べて元気に」 B分類
学年	小学校5学年
目標	○毎日の食事や使われている食品に関心を持ち、バランスを考えた食事をしようとする。 ○食品の栄養素的な特徴や食品の組合せに関心をもつ。 ○ご飯とみそ汁に関心を持ち、調理することができる。 ○米の炊飯の仕方を学習し、調理の順序を考えることができる。 ○身近な生活でプログラムが活用されていることに気付く。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	文科省「未来の学びのコンソーシアム」の「炊飯シミュレーター」プログラムを使用
環境	児童2人で1台の端末を使用
都道府県	東京都
実施校	台東区立金竜小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	(○数字番号はプログラミング教育との関連が強い段階) 1 毎日食べている食品について、どのようなものを食べているか調べる。 2 食品に含まれている5大栄養素と体内での主な働きについて調べる。 3 3つの食品のグループとその働きについて調べる。 ④ 米とご飯の違いを知り、おいしくご飯を炊くためにはどのような手順で炊飯すればよいかを考える。 ・考えた手順を発表する。 ・「炊飯シミュレーター」を用いて、考えた手順をプログラミングする。 ・正しく炊飯できる手順を確認する。 ・自動炊飯器にプログラムが活用されていることに気付く。 5 透明な鍋で炊飯を行い、コメの変化を確認する。 ・炊飯の仕方を振り返る。 6 おいしくみそ汁を作るための調理の仕方を調べる。 7 ご飯とみそ汁の調理を効率よく調理する計画を立てる。 8 手順に従って調理を行う。 9 活動の振り返りをする。
成果と課題	○炊飯に関する一連の手順をプログラミングする体験を通して、自動炊飯器にはプログラムが活用されていることに気付くことができた。 ●児童が試行錯誤する場面が少なく、ほとんどの児童が正しくプログラムを組めたため、ご飯をおいしく炊けない理由について検証・修正することが難しかった。